

稚内北星学園大学 2019 年度入学式・式辞

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。稚内北星学園大学を代表して、みなさんを歓迎し、入学をお祝いいたします。新入生のご家族、関係者のみなさまにも心からお喜びを申し上げます。

また、お忙しい中、稚内市長をはじめ多くの来賓の方々にご臨席いただきまして、誠にありがとうございます。

学校法人・稚内北星学園は「宗谷の地に高等教育機関を」という地域の熱意によって、1987 年、道内では初めてであった公設民営の形で設立され、短期大学としてスタートしました。

そうした経緯から、本学の建学の精神には「地域に貢献する人材の育成」が謳われており、実際、稚内・宗谷の行政機関はもとより民間企業、団体などで多くの卒業生が活躍しています。また〈街を教室に〉というスローガンの下で、学生は授業および課外活動を通じて、地域の人々と交流しながら地域の課題に取り組んできました。

特に 5 年前に地域の地の拠点、Center of Community、略して COC 事業の補助対象校に選定されたことで、地域との連携は一層深まり、学生のみなさんは実践の中で大いに学ぶこととなりました。例えば「地域学Ⅱ」の授業では地元の酪農、漁業、林業などの概要を知るだけでなく、それらの仕事の現場に赴いて話を伺い、実態を肌で感じました。教職課程に学ぶ学生は小中学生への学習支援に携わる機会を多く持ち、子どもと教育関係者との交流の中で教師として必要となる力を身につけました。地域情報を発信する映像作品の制作においては、地域の課題を発見し、詳細を調べ、関係者に取材し、チームの力で数々の立派な成果を生み出しました。

他にもさまざまな生きた学びがありましたが、それらはこの地域だからこそその内容ですし、地域の方々からの支援があるからこそ実現できるものです。そして、そこで得られるスキルやチーム力やクリエイティビティは、決して地域限定のものではなく、「社会人基礎力」と言われるような、あらゆる場面で発揮できる普遍性を持った能力です。またそうした実践の場は、本学のカリキュラムで身につける、情報メディア全般に関わる理論と技能を実際に適用する機会でもあります。

本学はいま、「情報メディアで社会に新しい価値を生み出す」という目標を掲げて教育、研究、社会貢献に臨んでいます。入学されたみなさんも、ただ情報メディアの「使い方」を

習得するだけでなく、情報メディアを「つくる」「生かす」、そして社会に役立ったり人々の暮らしを楽しくしたりするような力を備えていただきたいと思います。ただ与えられたことを覚えればいいのか、言われたことを実行すればいいというのではなく、自ら課題を設定して解決に取り組む姿勢を持ってください。

池上彰が MIT マサチューセッツ工科大学に行って、「当然、最先端のことを教えているんですよ」と尋ねると、こんな答えが返ってきたそうです。「最新の技術なんて四年で陳腐化してしまうから、そんなことを今教えたって意味はありません。常に最先端のものを作り出すためのベースになる力を身に付けてもらうのが、われわれの役割なんです」と。

また村上春樹は、機械的に暗記したテクニカルな知識は、時間が経てば自然に消えていってしまう、と述べて、次のように説いています。

「時間が経っても消えずに心に残るものの方が遥かに大事です。しかしそういう種類の知識にはあまり即効性はありません。そういう知識が真価を発揮するまでには、けっこう長い時間がかかります。即効性と非即効性の違いは、たとえば言うなら、小さなやかんと大きなやかんの違いです。小さなやかんはすぐにお湯が沸くので便利ですが、すぐに冷めてしまいます。一方大きなやかんはお湯が沸くまでに時間がかかるけれど、いったん沸いたお湯はなかなか冷めません。どちらの方がより優れているというのではなく、それぞれに用途と持ち味があるということです。上手に使い分けていくことが大事になります。」

MIT の言う「新しいものを生み出すベースになる力」、あるいは村上春樹の言う「即効性はないけれども長く生きる知識、教養」、そうしたものを学ぶのが大学というところです。小さなやかんを沸かすこともとりあえず必要ですが、とりあえず必要ではなさそうな大きなやかんを沸かすことも大切にしてください。

本学のカリキュラムは、情報メディア基礎科目を中心にして数理情報系、社会情報系、メディア表現系、図書館情報系の各科目群から成り立っていますが、これまでまったく興味がなかった、あるいは苦手だったという分野にも臆さず挑んでくれるよう願っています。それらがあなたにとっての大きなやかんであるかどうかはすぐには明らかにならないでしょうが、決して無駄にはなりません。

紹介した COC は、補助事業としては3月をもって終了しましたが、〈街を教室に〉して学ぶ本学の活動は続きます。そうした場に参加して得られる経験もまた、大きなやかんを沸かすことに役立つに違いありません。

そして、この入学式には一人しか参加が間に合いませんでしたが、ネパールからの留学生をまた数多く迎えます。日本人と留学生との交流の輪に、どうぞ積極的に加わってください。

私たちはつい、似た者同士で集まりがちです。世界に開かれているはずのインターネットにおいても、「フィルターバブル」とか「エコーチェンバー」と言われるような現象、つまり見たくないものを遮断してくれるフィルターによって心地よい情報にだけ包まれ、自分好みの意見だけがエコーのように響きわたっている、そうした環境に慣れてしまいがちです。多様性や異質性よりも同質性に安心してしまおう。確かにその方がラクなのですが、現実の社会はもっと多様で豊かです。ラクな関係に閉じこもらずに、異国の文化にも触れ、よりグローバルな視点を獲得すること、それも大きなやかんを沸かす一環となるはずです。

稚内北星学園大学は、小さな大学です。しかし小さいからこそ教員と学生のみなさんとの距離がとても近く、また地域社会との連携において機動性に富んでいます。この条件を生かして、授業の中でだけでなく、さまざまな場で旺盛に学んでください。地域の方々にも改めまして、学生たちへの励ましをいただけますようお願いいたします。

大切な 4 年間です。みなさん一人一人のこれからの大学生活が実り多いものとなりますよう祈念して、私の式辞といたします。

本日は、誠に、おめでとうございます。

2019 年 4 月 1 日

稚内北星学園大学 学長・齊藤吉広